

『みんなで創る森林組合』

村上市森林組合

オーダーメイドによる木製机を好評販売中。福島、宮城、山形県内官公庁に大・小合わせて100台以上を納品。(H30.1月~12月)



原材料は、無節材を厳選、徹底乾燥した集成材を使用。自然系塗料で表面仕上げした上質品。

平成30年度 新たに加わった仲間

東海林直仁君(中継集落出身)28歳。

大学卒業後、新潟市内就職を経て、昨年4月から事務職員(木材加工課配属)として採用。

木製机(上記写真)の製作・納品を担当、活躍中。

「入札から、製作、納品まで一貫して携わり、ものづくりの仕事にやりがいを感じています」



木材市況

状況: ○強 ●弱 △保合

新潟木材共販所(平成31年1月16日)

単位:円

樹種	規格		中 値 (石当たり)	状 況
	長さ(m)	太さ(cm)		
杉	3.0	20 ~ 28	3,300	○
"	3.0	30 ~ 40	3,500	○
"	3.65 ~ 4.0	16 ~ 18	3,300	○
"	3.65 ~ 4.0	20 ~ 28	3,300	◎
"	3.65 ~ 4.0	30 ~ 40	3,500	○
"	5.0 ~ 6.0	14 ~ 18	4,500	○
"	5.0 ~ 6.0	20 ~ 28	4,500	○
"	5.0 ~ 6.0	30 ~ 40	4,500	△

【市売り実績】

- ・出材数量 843 立方
- ・売上数量 525 立方(落札率62%)

【当日の市況】

県内外より50名を超える買方が参集し今年の「初市」が開催された。

針葉樹は、3~4mの中目、尺上材に引き合いが強く好調に買い進まれた。長尺材は6m材にまとまった手当てがあったが5m材は一服感がある。

広葉樹は、ケヤキ不振が昨年秋以降続いているが、トチ、サクラ、ホウ、クリについては好調を継続している。

次回の市日は1月28日(月)。

【理事会報告】

平成三十年十月二六日

◎議決事項◎

- 一 県森監査に対する対応について
- 二 後期末手当の支給について

◎報告事項◎

- 一 第二四半期の運営状況について
- 二 業務の経過について
- 三 組合員の加入・脱退について
- 四 設備投資計画の進行状況について

【理事会予定】

平成三十一年二月二日

◎議決事項◎

- 一 固定資産の取得について
- 二 改善資金の申請について
- 三 交付金の一部返還について

◎報告事項◎

- 一 第三四半期の運営状況について
- 二 業務の経過について
- 三 組合員の加入・脱退について

次回 平成三十一年五月上旬予定

林業四方山話 (よもやまばなし)

▼平成の世がもう数ヶ月で終わろうとしている。過ぎた日々を物悲しく振り返るか、新たな時代に心躍らせるかは人それぞれである。平成を総括したく元年の決算資料を紐解いてみたので少しだけ紹介したい。()内は平成29年度決算。▼売上高は6億円(4億6千万)で総資産は14億円(4億9千万)。組合員は1204人(924人)で出資金は9千2百万(8千8百万)。役員は20人(11人)で従業員は66人(26人)。丸太価格は6500円/石(2900円/石)で生産量は9800石(51000石)。▼一年一年の変化は少なくとも比較してみると30年という時間の経過を改めて感じてしまう。組合の問題だけではない。山主にとって最も大切な立木価格は4000円/石から1000円/石を割り込んでいる。この数字の影で苦悶する者の存在もまた忘れてはならない。▼山に分け入ると各所に御大典を記念した造林地がある。公的・私的を問わず新たな天皇の即位と林業の未来を信じて植林されたであろう。先人達の一途な思いに頭が下がる。▼岩船・村上地域では林業の振興を期して持ち回りで記念植樹を行っている。きしくも今年は山北地区で開催され60回の記念大会でもある。主催者の村上市を補佐し新たな時代の到来を肌で感じながら次世代に引き継ぐ御大典記念植樹としたい。さて新たな元号は？ ウッドビレッジ

つながれ!! 日本海沿岸東北自動車道を応援しています。

H30朝日温海道路 檜原・板屋越地区立木伐採作業

発注者:国土交通省 北陸地方整備局

受注者:村上市森林組合



早稲田地内より山北方面を望む

当組合では民有林造林事業の受託作業のほか、一昨年度に続き、朝日温海道路(高速道)にかかる県埋蔵文化財調査に先駆けて行われる先行伐採作業で、旧朝日村の檜原～早稲田地内までを受注し、作業させていただきました。

朝日地域では先行伐採も進み、至る所で高速道路の建設工事が始まって来ました。

山北地域でも、今年くらいから伐採作業も進んでくるのが推察されます。

当組合では高速道路の一日も早い山北地域工事着手と、早期完成を願い、地元山北地域の伐採作業の受注ができるよう、今年度も積極的に取り組んでまいります。



板屋越地内より村上方面を望む

組合員さまの所有山林で、朝日温海道路の事業用地買収にかかった山林はありませんか？買収で残った山林や、隣接している場合、高速道完成後材木の切出しが困難になる場合も想定されます。

そうなる前に、森林整備課にまずはご相談を！



寒さ厳しき折ですが、組合員の皆さま並びにご家族の皆さまにおかれましては、ご清栄のこととお喜び申し上げます。また、組合の事業につきまして、組合員各位から多大なご支援をいただき、滞りなく展開できておりますことに感謝申し上げます。

さて、平成三十一年五月に約二百年ぶりとなる天皇陛下の譲位による新たな御世が始まります。振り返れば、「昭和」「平成」の両時代は、災禍と復興の歴史でもありました。昭和では戦火により国土が荒廃しましたが、その復興には都市の再生とともに森の再生も同時に実施されました。日本各地で植林が国策として行われましたが、その山林は現在成熟して利用を待つ林や整備を必要とする林となっています。また、平成には大きな震災や豪雨被害が多く発生いたしました。その都度森林の重要性は再認識されることとなりました。森林林業を取り巻く社会環境は変化して行きます。二酸化炭素排出による温暖化などの地球レベルの環境問題、温暖化に関連するとも思われる異常気象による局地的大雨での山地災害など、多くのニュース映像が森林の壊滅的狀態を映し出します。その結果、自然災害への防御として一層の森林整備の重要性が叫ばれ、その対応・対策に費用が必要との理解と認識が人々に浸透してきているように思われます。年度開始の四月からとなりますが、森林林業関係者の悲願としておりました国による森林環境税及び森林環境譲与税がスタートする年となります。

森林整備を実際に事業として実施してゆかなければならない森林組合が担う役割は決して軽くはありません。信頼に応える気概と覚悟を持たねばならないと考えております。役職員が一致協力して遂行してまいります。今後事業を推進するにあたり、組合員の皆さまから一層のご支援をお願い申し上げます。



ご挨拶

代表理事組合長 板垣茂樹

－平成31年度森林整備予算の状況－

私たちの山づくりに直結した造林補助予算の内容が公表されました。平成30年度補正分とあわせ、344億7千6百万円が確保されました。前年に比較して約20%(58億円)増額されています。国は林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を実現するため積極的な予算を確保し、計画的かつ安定した木材供給を行う地域に予算を集中投下する方針です。また、平成31年度から始まる森林環境譲与税と市町村による新たな森林管理制度について、説明会や意向調査が行われる予定です。当組合としてもより良い山作りをお手伝いしてまいります。

森林環境保全直接支援事業	
平成30年度補正予算	66億8千7百万円
平成31年度当初予算	277億8千9百万円
計	344億7千6百万円